

イノベーション

研究開発活動

基本的な考え方

研究開発におけるビジョン

「世界をリードするアジャイルな研究開発組織として、医療水準を向上させる新しいソリューションを創出します。」

このビジョンを達成するために、オリンパスの経営戦略に基づいた研究開発における3つのミッションを設定しました。

患者さんの安全と持続可能性	患者さんの安全と製品の品質を優先し、健全で能力の高い組織を確立し維持する
成長のためのイノベーション	製品や手技、ソリューションにおいて価値を生み出すイノベーションを提供する
生産性の向上	パフォーマンスの高い組織となり、プロジェクトの計画精度と効率性を改善する

新経営戦略における研究開発戦略

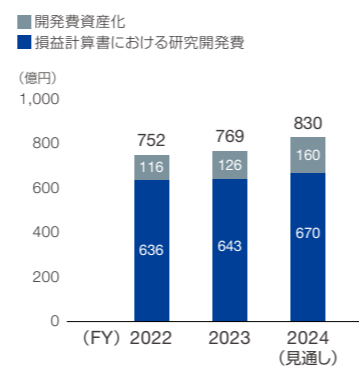
2023年5月に発表した新経営戦略において、当社の発展に不可欠なイノベーションのための最も重要な価値創造の柱として研究開発を位置づけています。そして、アンメットニーズに対応したイノベーション手法の導入、将来のイノベーションを実現するための適切な投資、戦略パートナーシップの積極的な推進、製品の市場投入の迅速化を目指しています。

顧客主導のイノベーション	戦略パートナーシップ
<p>アンメットニーズに対応しつつ、医療費の削減を図るために、医療従事者との共同開発体制を確立し、臨床主導でのイノベーションに注力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床成果と医療水準の向上 医療コストの最適化 「お客様の声」を収集するだけでなく、すべての開発段階での定期的なフィードバックの際に医療従事者と連携 	<p>ジョイントベンチャーやアーリーステージ投資、M&A、共創による戦略パートナーシップを積極的に推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> コア技術力の強化に向けたM&A機会を模索 ソニー（株）との合併会社であるソニー・オリンパスメディカルソリューションズ（株）等のジョイントベンチャーを活用 第三者との連携によって外部技術を活用し、製品の市場投入までの期間を短縮
効率的で優れた研究開発組織	適切な投資
<p>グローバルな経営資源を最大限に活用し、能力と適応力を強化することで、プロジェクトをより効率的かつ確実に実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> リーン・アジャイル手法と、コンカレント・エンジニアリングの実装によってプロジェクトを効率的に実行 グローバルな研究開発リソースから最適な開発チームを形成することで、各プロジェクトのリソースと能力を最適化 新たなPMO (Project Management Office) アカデミーやデジタル・エクセレンス・センターの設立を通じてプロジェクトマネージャーやエンジニアの能力を向上させます。また、外部活用の促進によって研究開発リソースのプールを増強 	<p>長期的成長の実現に向けた、将来への投資について適切な判断を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> 緻密で戦略的な事業計画プロセスに従い、部門やビジネスユニットにおけるプロジェクト・ポートフォリオに優先順位を付ける デジタル化やロボティクス、人工知能 (AI)・機械学習 (ML) など、顧客価値を高める最先端テクノロジーを取り入れる

研究開発支出に対する考え方

オリンパスが世界をリードするメドテックカンパニーとして飛躍していくためには、競争力のある革新的な製品を迅速に市場に提供していくことが重要です。従来の自前主義型研究開発から、アライアンスやパートナーシップを活用したアプローチに移行することで、開発期間の短縮と開発コスト全体の最適化の実現を目指します。投資の水準としては、2026年3月期において売上高の約8.5%を研究開発活動に投資することを目指しています。この比率はメドテック業界における同業他社の平均値も反映しております。予算の内訳に関しては、事業維持のための研究開発活動から、中期的なイノベーション・技術開発へと徐々に移行し、次世代製品のための臨床的アンメットニーズに主眼を置いた戦略遂行を支援します。またさらなる革新的技術や画期的技術の探索にも予算を割り当て、投資してまいります。

研究開発支出



シングルユース内視鏡

リユース内視鏡およびシングルユース内視鏡に対する基本認識

オリンパスは、2023年5月に発表した経営戦略における4つの価値の源泉の一つとして「事業拡大とグローバル展開」を掲げています。当社では引き続きシングルユース内視鏡の市場機会に注目しており、リユース内視鏡に加えて、シングルユース内視鏡で製品ポートフォリオを補完してまいります。

リユース内視鏡は、高度な画像処理や操作性に対する臨床上のニーズが高いことに加え、病院にとっての経済的な効率性から、今後もさまざまな手技の第一選択肢になると考えています。

一方、シングルユース内視鏡は、特定の手技に関する選択肢として急速に普及しており、シングルユース内視鏡の市場は、2020年から2030年の間に、毎年15~18%の成長*1が見込まれています。

当社は、内視鏡の領域におけるリーディングカンパニーとして、画像技術、操作性、人間工学に係る知識・経験や、マーケットにおける圧倒的なシェアを強みとして、シングルユース内視鏡の開発に取り組んでいます。

*1 成長率見直しは自社調べ

当社においてシングルユース内視鏡を導入予定(販売中)の領域(2023年10月現在)

当社は、あらゆる患者さん、手技、医療現場に最良の適切なソリューションを提供し、**内視鏡医療のパートナー**となることを目指しています。この実現に向けて、**シングルユース内視鏡に対する戦略的なアプローチを確立しました。**

画像技術、操作性におけるパイオニア			マーケットにおける圧倒的なシェア		
最高水準の画像技術	感染対策	高い操作性	ワークフローの改善 (オンデマンドソリューション)	耐久性と信頼性	コスト管理

革新的なイメージング技術にフォーカスし、医師のニーズを満たす最適な内視鏡を提供

消化器科	泌尿器科	呼吸器科
十二指腸鏡・胆道鏡 2025年3月期~ 2026年3月期に導入検討中	尿管鏡 2025年3月期に導入検討中	気管支鏡*2 2022年3月期に米国にて発売済み 鼻咽喉鏡*2 2024年3月期に米国にて発売済み

Spotlight : 米国にて発売中

E-SteriScope Single-use Flexible Video Rhinolaryngoscope*2

2023年、米国にてE-SteriScopeを発売しました。診断と治療の両方に対応したポートフォリオにより、オリンパスの従来の内視鏡のプラットフォームを補完して、包括的な耳鼻咽喉科向けソリューションを提供します。



シングルユース内視鏡は、必要に応じて随時使用することができ、スムーズな医療行為をサポートします：
 ・リユース内視鏡の使用が難しい診療時間外の症例
 ・医師がベッドサイドで迅速に検査を行う必要がある場合

E-SteriScopeは、Hunan Vathin Medical社との提携による商品群です。日本国内では、当社によるE-SteriScopeの取り扱いはありません。

*2 医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております